堺市教育會報

第 62 号　　平成 23 年 2 月 1 日

発行所　堺市教育会
責任者　大澤徳平
〒590-0946
堺市堺区熊野町東４－２－１０
電話・FAX(072)２５２－６７１１
http://sakai-kyouiku.com/

ごあいさつ

堺市教育会　会長　大澤徳平

戸神会長からバトンを受けて早１年６ケ月、教育会を知り尽くしておられる副会長の小山・山本・辻各氏を始め、堺の教育を常に気にしておられる理事の先生方、地域をまとめていただている支部長の皆々様、会員の皆様方に支えられて何とか務めさせていただいています。ただ後期高齢者だけに物忘れが酷く自分自身が呆れている毎日です。

先ずご報告ですが、本年度も愛媛県松山市で開催された日本連合教育会研究大会に 20 名の現場の先生と参加、堺の先生方の立派な姿勢に感心するやら、意義深い大会参加が後々の現場へのお返しが期待できそうです。大会運営もすみずみまで行き届いた立派な大会でした。平成 27 年の夏はこれを堺で開催せねばなりませんので出来るだけのチェックをしてまいりました。目玉の記念講演は松山らしく「日本の近代化と正岡子規」有馬朗人（元文部大臣）アトラクションは高等学校対抗戦の「ミニ俳句甲子園」といい企画で成功しています。堺らしさを発揮せねばなりません。皆様のお知恵を拝聴いたさねばなりません。よろしくお願い申し上げます。

新規事業と致しまして「堺の風景」絵画を募集いたしましたところ 80 数点集まり過日専門家に来ていただき優秀作品を選びました。12 月 23 日～28 日まで市役所本館１階エントランスホールで展覧いたす運びとなりました。小山副会長・上野事業委員長はじめ関係各氏に感謝と共に御礼を申し上げます。

私が所属している奉仕団体で教えられたお話を一つ。それはイタリアの外科医の「鏡の前の外科医」という話です。皆様もご存知でしょう。外科の病院に行きますと、必ず手術場に入る前には大きな鏡がございます。外科医が愈々手術場に入る前に鏡の前で指の消毒をいたします。消毒をしながら自問自答します。この手術は人間としてやるべきか否か。この患者にこの手術は必要か。この手術を行うにお前は自信があるのか完全な手術が出来るのですか。と反問してるのです。出来る。それではやれ。で手術室にはいります。１時間で済む手術もあれば５時間・８時間かかる手術もあります。手術が終わり手術場を出て再び鏡の前に立ち、汚れた指を洗いながら、見立てどうりであったか。正しい手術が出来たか。自信のもてる技術を発揮できたか。完璧か。自ら反問するのです。この心です。皆様も毎日顔を洗いながら今日何をするのか、それは必要か。今日行う仕事に自信があるか。自分の持てる技術をすべて発揮できるか。反問するのです。仕事を終えて帰りましたらもう一度朝の鏡に向かって、今日も自分の技術が発揮できたかをもう一度反問するのです。この習慣を持てば素晴らしい人生が送れること間違いなしです。心がけてください。「思いやりの心を」！最後に「堺市教育会」の更なる発展のために、皆様のご理解とご支援を伏してお願い申し上げます。

「堺から公教育の未来をつくる」

堺市教育委員会　教育長　芝 村　　巧

平成 20 年 3 月に告示された新学習指導要領が、いよいよ小学校では平成 23 年 4 月から、中学校では平成 24 年 4 月から全面実施されます。新しい学習指導要領のねらいを実現するため、各学校において、学校や地域の実態等に応じた適切な教育課程の編成と実施、指導方法等の工夫をしていくことが重要となります。

本市では、一人一人の個性や限りない可能性を伸ばし、豊かな人権感覚をもつ次世代を担う子どもたちをはぐくむため、あらたに「未来をつくる堺教育プラン（案）」を策定しているところです。本プランは、「堺市マスタープラン」と連携しながら、今後 5 年間の本市における教育の基本的な方向性を定めるものです。

近年、社会が急激に変化するとともに、人や社会の「つながり」の希薄化が進む中にあって、子どもたちに「自分にはよいところがある」という自尊感情をはぐくむことをはじめとして、人間関係を築く力やコミュニケーション能力、主体性や自律性、創造性等を育て、子どもの健やかな成長を支え、次代を担う人材を育成することが求められています。

本市の教育理念である「ひとづくり・まなび・ゆめ」のもと、すべての堺市立学校園で幼児期からの子どもの発達を踏まえた「縦につながる教育」と、学校・家庭・地域に加えて関係諸機関が連携協働した「横にひろがる教育」を推進し、その検証改善を着実に積み重ねることを通して、堺から公教育の未来をつくり、発信してまいります。

教育会におかれましては、昨年度のホームページの開設に引き続き、本年度は、「第１回堺市教育会絵画展」の開催、「初任者研修奨励金交付事業」への取組など、今日的な教育課題に対応した支援や新たな事業等を積極的に展開されています。１２５年前、本市教育の充実と発展を願う市民の有志により発足された理念が、今なお、会員の皆様に引き継がれ、永きにわたって進取の気風とその精神が大切にされていることが伝わってきます。

最後になりましたが、今後益々の教育会の発展を祈念いたしますとともに、本市教育の新たな未来を築いていくため、より一層の温かいご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

平成22年度　堺市教育会事業

事　　業	月　　日	内　　容
教育会の集い	随　　時	幼・小・中・高がＰＴＡと共催で実施
日連教　愛媛大会	8月18日～19日	日本連合教育会研究大会愛媛大会参加
永年勤続感謝状贈呈	3月上旬	堺市立学校園　勤続30年の教職員 堺市立学校園　勤続20年の技術職員 堺市内の公・私立学校　勤続30年の教職員
青少年奨励	3月上旬	堺市在住、市立学校園在学の該当者
教育研究諸団体助成	随　　時	○国・近畿・府・市の研究大会等を行う団体に対し助成金を交付 ○教育研究を行う団体に対し助成金を交付
会報発行	2月上旬	第62号
教育会絵画展(新)	12月(於市役所)	作品募集・展示・表彰
教育支援団体表彰(新)	3　　月	学校教育を支援している団体を表彰
校内新任者研修助成(新)	随　　時	経験の少ない教職員の学校での研修補助

平成22年度　堺市教育会会議

名　　称	月　　日	内　　容
協議会	5月31日(月) 3：30～ 堺能楽会館	平成21年度　事業報告・決算承認の件 平成22年度　事業計画・予算承認の件 講演「堺市のめざす教育」　教育次長　石井雅彦氏 公演「チェロコンサート」　ギア・ケオシヴイリ氏
役員会	5月7日(金) 3：00～ 堺市民会館 小集会室	役員・事務職員異動の件 平成21年度　事業報告・決算承認の件 平成22年度　事業計画・予算承認の件 平成22年度　協議会進行・役割分担の件 日本連合教育会研究大会愛媛大会の件
	9月13日(月) 3：00～ 堺市民会館 小集会室	教育会の集いの件・新事業の件 日本連合教育会大会愛媛大会の件 会報62号発行の件 その他
	1月31日(月) 3：00～ 堺市民会館 小集会室	活動報告 永年勤続・絵画展等の学校訪問 会計中間報告・次年度事業確認の件 役員改選の件 その他
支部長会	4月24日(土) 3：00～ 新金岡小	新規事業計画
	8月30日(月) 3：00～ 堺市民会館 第2会議室	第2回役員会に向けて
	1月17日(月) 3：00～ 堺市民会館 第1会議室	第3回役員会に向けて
委員会	5月14日(金) 10月15日(金)	事業委員会　新規事業計画 事業委員会　新規事業の報告・計画

平成22年度「青少年奨励賞」

昭和24年4月1日より堺市教育会の事業として継続されてきた「青少年善意賞」は、平成9年度より「青少年奨励賞」と名称を改めた。

この賞は、青少年指導・社会奉仕・友愛等、これまでの善意賞規程に加え、児童生徒の優れた研究や学習・スポーツの成果を奨励するものである。

平成21年度受賞者　　後藤　大知（南八下中3年）

平成22年度「教育研究諸団体助成」

堺市の教職員の資質向上や健全な児童・生徒育成のため、次のⅠ、Ⅱの団体に対し助成金を交付する。

Ⅰ、国・近畿・府・市の研究大会等を堺市で行う団体。

Ⅱ、教育研究を行う団体。

＜平成22年度 助成金を交付した団体＞

- 第28回　堺市ようちえんてん
- 第58回　はとぶえのつどい
- 第 2 回　堺市思考力コンテスト
- 小学校教育研究部会
  （算数・音楽・図工・体育・特活・事務・養護教育・保健）
- 中学校教育研究部会
  （美術・技術・家庭・事務・養護教育・社会・音楽）

平成22年度「校内新任者研修助成」（新事業）

堺市の各学校において、経験の浅い教職員（1～5年）に対し研究助成を行う

＜平成22年度助成金を交付した団体＞

小学校　三宝小・三国丘小・神石小・西陶器小・福田小・久世小・日置荘西小・野田小・浜寺石津小・向丘小・平岡小・福泉小・福泉上小・鳳南小・津久野小・宮山台小・竹城台小・新金岡小・光竜寺小・東三国丘小・金岡小・五箇荘東小

中学校　上野芝中　　（全　23校）

平成22年度 第１回「教育会絵画展」（新事業）

平成22年12月23日～28日　於 堺市役所 本館エントランスホール

堺市の児童生徒が、堺に住んでいることを誇りに思い、新しい堺・文化の担い手に育つことを目的に行います。

第１回テーマは「堺の風景」四ツ切り画用紙で、小学５・６年生と中学生を対象に行い、28校82点が集まりました。

堺市長賞　福江　真菜（浜寺南中１年）〈浜寺公園駅〉
堺市教育委員会賞　辻　潤人（上野芝小５年）〈百舌鳥八幡宮〉
堺市教育会会長賞　西川　昂宏（東百舌鳥中２年）〈堺の燈台〉
堺市ＰＴＡ協議会会長賞　宮田満里奈（八下中３年）〈大泉緑地〉
優秀賞〈12名〉
浅田夏樹（八下中３年）・有村夏樹（浜寺南中３年）・木戸貴也（旭中２年）・
角田明菜（浜寺南中２年）・石原健士郎（八下中１年）・木全　達（中百舌鳥中１年）・
田村知聡（鳳南小６年）・田守大真（黒山小６年）・辰巳さくら（神石小６年）・
竹本　翠（錦綾小５年）・森　美沙稀（深井西小５年）・宮崎　稜（錦小５年）・
優良賞〈15名〉
大畑慎一郎（中百舌鳥中３年）・曽根田直也（旭中２年）・山田和花（中百舌鳥中２年）・
牧岡里佳（さつき野中２年）・窪田昇馬（八下中１年）・元田奈穂（中百舌鳥中１年）・
橋本　萌（赤坂台中１年）・中野華礼（八田荘小６年）・杉田将梧（平尾小６年）・
池田羽菜（熊野小６年）・田中　優（八田荘小６年）・西川宙志（白鷺小６年）・
天野大輝（西陶器小５年）・中安さえか（錦綾小５年）・森畑翔平（鳳南小５年）

平成22年度「教育支援団体表彰」（新事業）

校区の子どもたちの健全な育成をめざし、明るく公平な学校支援の出来る団体を表彰する。

平成22年度　各支部教育会の集い

支部名	日・時	場所	内容
幼稚園	22年 12月７日(火) AM９：50～ 11：50	サンスクエア堺 B棟ホール	コンサート及び講演 「歌うことは希望を語ること」 講師　時田　直也　氏
小学校	23年 １月16日(日) PM２：00～ ４：00	国際障害者交流センター (ビッグアイ)多目的ホール	講演　「子どもが作る弁当の日」 講師　元香川県綾上中学校校長 竹下　和男　氏
中学校	22年 ９月11日(土) PM２：00～ ４：30	ソフィア堺 大ホール	講演 「日本とチベット異文化を超えて」 講師 バイマー　ヤンジン氏
高等学校	23年 １月29日(土) PM１：30～ ４：30	堺高校　５Ｆ 多目的ホール	講演　「夢　追いかけて」映画上映 「夢は実現してこそ夢」 講師 日本パラリンピアンズ協会会長 河合　純一　氏

平成22年度 永年勤続感謝状の贈呈

堺市教育会の事業の一つである永年勤続教職員に対する感謝状の贈呈は、昭和51年に堺市教育会90周年を記念して制定されたものである。これは、教員は30年以上、技術職員は20年以上の期間勤められ、学校園教育に専念された方々に感謝の意を表すものであり、今年度は34回目を数える。

座古 るり子（三国丘幼）
柿花 明美（三国丘幼）
岸脇 律子（三宝小）
宍田 佳子（三宝小）
筒井 寿夫（錦西小）
萩本 時男（錦西小）
市川 祥子（市　小）
門林 永久（錦綾小）
遠藤 浩也（錦綾小）
石田 美知世（浅香山小）
高橋 章子（錦　小）
山口 健治（錦　小）
小畑 全代（錦　小）
上野　睦（熊野小）
岡本　健（熊野小）
田中 さとみ（三国丘小）
林　博文（英彰小）
粟田 和枝（英彰小）
筒井 達也（新湊小）
津田 敏雄（新湊小）

田中 直美（新湊小）
吉田 雅枝（新湊小）
上野 博世（少林寺小）
清水 隆史（少林寺小）
中井 千鶴（安井小）
阪口 博之（安井小）
藤本 正英（大仙西小）
御前 裕見子（大仙西小）
菊池 浩一（神石小）
田中 正枝（東陶器小）
浅井 義博（東陶器小）
高瀬 智恵（東陶器小）
中野 愼一（東陶器小）
浜本 和彦（西陶器小）
吉岡 勢津子（福田小）
仲辻 修二（福田小）
山口 智里（土師小）
林　和子（土師小）
加藤 宏樹（八田荘小）
木戸 一智（宮園小）

河口 由美（宮園小）
森下 京子（久世小）
奥野　泉（久世小）
中野 久一（日置荘西小）
豊西 由美子（日置荘西小）
前田　泉（日置荘西小）
小島 敏子（登美丘西小）
山本 滋基（野田小）
大井田 信貴子（野田小）
川北 泰男（八下西小）
川野 朋子（白鷺小）
泉　佐（浜寺石津小）
中嶌　淳（平岡小）
奥田 光司（福泉小）
住江 一義（福泉小）
山田 敦子（福泉小）
佐々井 郁子（福泉上小）
鳥井 久司（福泉上小）
芦田 万葉子（福泉東小）
山本 大蔵（福泉東小）

事業紹介

髙瀬　衣利子（鳳　　小）
金岡　加代子（鳳　　小）
元永　千登世（鳳　　小）
藤原　典子（鳳南小）
岩﨑　はるみ（鳳南小）
住田　耕治（津久野小）
東野　新二（津久野小）
北井　宏昌（津久野小）
長野　裕代（上野芝小）
嶋　　哉子（上野芝小）
中村　眞人（浜寺小）
山千代　寿子（浜寺小）
髙橋　久美子（浜寺昭和小）
吉岡　悦子（竹城台小）
松浦　洋三（竹城台東小）
中村　育子（茶山台小）
遍照　裕子（茶山台小）
大中　恵美（茶山台小）
小笹　雅章（高倉台小）
門野　博之（高倉台小）
米倉　常二（原山台東小）
本田　千恵（庭代台小）
長野　言人（庭代台小）
茨木　茂二（御池台小）
平田　幸子（赤坂台小）
蔭山　共代（槇塚台小）
徳井　恵子（新檜尾台小）
大島　智恵子（美木多小）
松井　謙三（美木多小）
宮本　由美（美木多小）
山本　明美（美木多小）
魚森　ふみ代（美木多小）
久保田　智子（美木多小）
島岡　さな枝（城山台小）
田村　仁彦（上神谷支援）
三浦　雅彦（上神谷支援）
細田　里美（新金岡小）
青木　三幸（百舌鳥小）
瀧口　真紀（東三国丘小）
高瀬　正彦（東三国丘小）
中尾　和功（金岡小）
小森　礼子（中百舌鳥小）
芝田　公子（中百舌鳥小）
清水　洋一（平尾小）
坂部　弘重（月洲中）
富岡　俊彦（大浜中）
石田　人士（八田荘中）
山本　晃規子（登美丘中）
吉川　久巳子（登美丘中）
中山　得治（登美丘中）
増田　誠一（野田中）
辻川　史雄（上野芝中）
山﨑　真須美（福泉中）
内橋　陽子（福泉中）
大竹　欣子（津久野中）
中村　千栄子（津久野中）
辻内　敏恵（浜寺南中）
岸脇　正和（福泉南中）
椋木　邦彦（晴美台中）
林　　優（中百舌鳥中）
安岡　祥蔵（第二商業高校）
津留　偉也（堺女子高）
小林　美保（堺女子高）
松島　義信（堺女子高）
真壁　　輿（堺女子高）
森本　哲哉（堺女子高）
松島　愛子（堺女子高）
中山　　均（人権教育部）
橋本　欣也（人権教育部）
山本　雅士（総務部）

（計130名）

第62回 日本連合教育会研究大会　愛媛大会　8月18日～19日

愛媛大会に参加して

堺市立浜寺中学校長　植　田　利　彰

今年は、岡山からアンパンマン列車（特急しおかぜ）に乗って、ＮＨＫ「坂の上の雲」のドラマで一躍脚光を浴びた、愛媛県松山市へ行きました。全国から1200名の会員が集まり「変化する社会を心豊かで健やかに生きる日本人の育成」という大会主題のもと、教育実践の在り方を研究協議しました。

堺市教育会は、大澤会長をはじめ各学校から推薦された21名が参加しました。参加するまでに、各自が分科会等の協議資料を作成し、3回にわたって、全員で事前研修を行い、大会に臨みました。

私は今回団長として参加機会を与えられ、大いに勉強することができました。

開会式の中で、「1年の計は作物を植え、10年の計は樹木を植え、100年の計は人心を育てよ」という言葉を伺いました。成熟した今の時代、人は、夢や希望、志を見失っています。学校を任されている一人として、子どもたちに、夢や希望、志がもてる学校経営をしたいと思っています。先の見通しが立てにくい現代こそ、100年先を見通した国の教育が大切なのではないかと思いました。

シンポジュームでは、「子どもが伸びる教育をめざして」をテーマにシンポジストとして堺市立野田小学校長の山本滋基先生が代表として参加し、パワーポイントを使って、「子どもの心に灯をつける授業」の紹介や、堺市の「思考力コンテスト」などの取り組み等を紹介しました。

午後からは各自が、10分科会に分かれ、自分の実践を発表したり、他府県の発表に質問をするなどし、有意義に終わることができました。

今回は残念ながら2日目の記念講演を聞けずに帰ってきました。

最後になりましたが、日本連合教育会研究大会愛媛大会に参加させていただいた、堺市教育会に心から感謝申し上げます。

日本連合教育会研究大会 愛媛大会参加者名簿

大澤徳平	教育会・会	長
植田利彰	浜寺中学校・校	長
山本滋基	野田小学校・校	長
西田　弘	八田荘西小学校・教	頭
林　博文	英彰小学校・教	頭
原田裕美	登美丘南小学校・教	諭
岡田安積	深井小学校・教	諭
工藤真理	東三国丘小学校・教	諭
松村麻代	三国丘小学校・教	諭
馬渡尚子	若松台中学校・教	諭
杉中啓子	南八下中学校・教	諭
平田幸子	赤坂台小学校・教	諭
下家一恵	新金岡小学校・教	諭
島木伸也	福泉中学校・教	諭
稲田美穂	日置荘小学校・教	諭
屋宮雄一郎	鳳南小学校・教	諭
谷村泰幸	竹城台東小学校・教	諭
守行みち子	八田荘幼稚園・教	諭
小畑全代	錦小学校・教	諭
仲田光子	事務局・	
藤丸洋一	事務局・	

第62回　愛媛大会（シンポジウム）

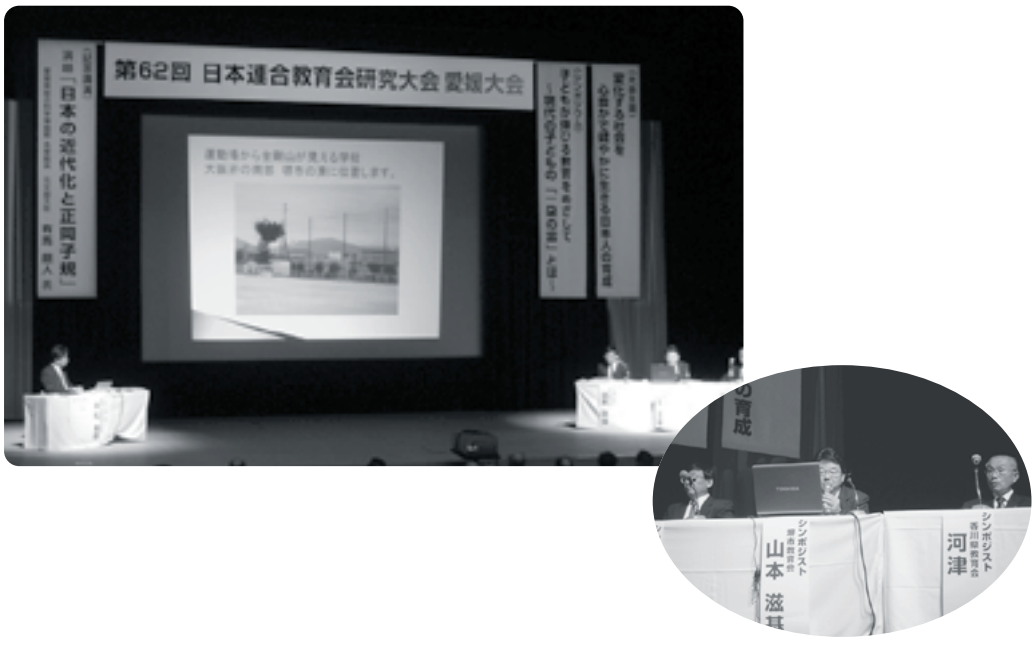
「子どもが伸びる教育をめざして」

～現代の子どもの「一朶の雲」とは～

シンポジスト（３名）　堺市立野田小学校　校長　山本　滋基

今回のシンポジウムの課題は「知識基盤社会」における現代の教育の有り様が問われている中で，「学校は何をするところなのか」ということでした。その「問い」に対して様々な答えがあるという前提でスタートしました。そこでまず私は，堺市の教育実践を紹介する中から討論に入らせていただきました。具体的には昨年から実施した思考力コンテストの意義や野田小学校の取り組んでいる算数科を中心とした授業について触れながら「堺市がめざす一朶の雲」についてパワーポイントを使って説明しました。

堺市が全校で取り組んでいる「一人一人の子どもの居場所と出番のある授業づくり」という言葉に会場から賛同の声も多く，シンポジウムが終了してからも他府県の先生から堺市の教育実践に敬意を表し参考にさせていただきますという言葉をたくさんいただきました。また野田小学校の第２回堺市算数教育研究大会開催に向けて教職員にどのように校長として動いたのかという質問が会場からあり，ホームページの活用という話をさせていただきました。今回シンポジストとして参加させていただき，あらためて本校の教職員と一緒に「一朶の雲」を見つめ厳しい坂を上っていく気持ちをしっかりと持つことができました。ありがとうございました。



愛媛大会に参加して

第１分科会　「教育課程」

堺市立登美丘南小学校教諭　原　田　裕　美

『坂の上の雲』のまち松山で、第62回日本連合教育会研究大会愛媛大会が開催されました。全国から約1200名の会員が集まり、各地での教育実践が発表されました。このような大会に参加させていただいたことを感謝しています。

「子どもが伸びる教育をめざして」というテーマでのシンポジウムでは3人の先生方の提案がなされました。堺市立野田小学校長の山本先生が「子どもが笑顔で登校し笑顔で下校する学校」づくりの実践発表をされました。「豊かな学び」と「教師の授業力向上」について報告されましたが、何事にも≪徹底的に≫取り組むことが次への一歩につながっていくと会場全体で共通理解されたように感じました。

アトラクションでは、高校生による「ミニ俳句甲子園」が行われました。５・７・５の17文字に各々の思いが溢れんばかりに込められていました。それぞれの句に対する質疑応答のテンポのよさは心地よく、ただただ感心するばかりでした。

分科会では、【ゆとりのなかで「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と運用】という協議題で滋賀県彦根市立若葉小学校と愛媛県松山市立道後中学校からの実践報告がありました。若葉小学校では、学びの「根っこ」・人間としての「根っこ」・信頼される学校の「根っこ」を育てる取り組みをされています。特に朝の活動では、毎日８時35分から45分までの10分間を全校一斉の視写活動を取り組み、効果をあげています。また、教育活動の充実を目指してクォーター方式による時間割を編成されています。様々な取り組み実践を聞いて、常に改善し継続していくことの大切さを実感しました。道後中学校では、言語活動の充実を目指して取り組まれた研究を発表されました。どの教科も言語活動を取り入れていくことの大切さを教えていただきました。

コーディネーターの先生の「子どものためにこの学校がある。子どものために私がある。」という言葉が印象に残りました。大事にしたい言葉です。

最後になりましたが、お世話くださった先生方本当にありがとうございました。

第２分科会　「学習指導」

堺市立八田荘西小学校教頭　西　田　　弘

全体会のシンポジウムは「子どもが伸びる教育をめざして」がテーマで、堺市教育会からは山本滋基先生が野田小学校の取り組みを分かり易く実践報告されました。アトラクションの地元高校生による俳句大会は、正岡子規を輩出した松山市ならではの楽しい催しでした。

午後からの分科会は第２分科会≪学習指導≫に参加しました。学力向上に向けた校内体制づくりや学習指導の実践報告の後、主体的な学習習慣の確立や研究テーマでもある習得・活用・探究と学力の定着等について討議が始まりました。

退職された先輩諸先生方からも積極的に質問があり、明日の日本の教育について真剣な意見が出し合われました。少しずつ会場の雰囲気が張りつめてきました。今年で62回目を迎える日本連合教育会研究大会の歴史の重みでしょうか。

研究テーマである「習得」「活用」「探究」はそれぞれ切り離さず、一連の捉えとして学習活動を展開していくことの確認や、小中連携についての情報交換など活発な討議が行われました。また、温故知新ではないですが、昔から連綿と受け継がれてきた教育も忘れてはならないというような意見もありました。

研究発表会が終了し、帰りのバスから見る市内の様子は、中心に松山城があり、坊ちゃんと俳句の街は、落ち着いた佇まいでした。清楚な高校生がさっそうと自転車のペダルをこいで通り過ぎて行きました。帰りには堺の先生方ともすっかり打ちとけることができ、本当に有意義な二日間となりました。

大澤会長はじめ植田校長先生、事務局の先生、そして参加された先生方にはお世話になりました。

ありがとうございました。

愛媛大会に参加して

第２分科会　「学習指導」
堺市立深井小学校教諭　岡　田　安　積

第 62 回日本連合教育会研究大会に参加させていただき、貴重な研修の機会を得ることができたことに、大変感謝しています。

私が参加した第２分科会「学習指導」では、知・徳・体を含めた形での本校の学力向上プランを題材に協議資料としてのレポートを作成しました。

事前研修会においては、実践報告や研究討議を通して、先生方にいろいろなアドバイスをいただけたので、当日の討議会には主体的に参加することができました。

分科会では、「習得・活用・探究を柱とする確かな学力の定着を図る学習指導の改善」の協議題のもと、高萩市立君田中学校の「生徒の学習意欲を喚起し、文脈に即した漢字を確実に身に付けさせる指導の在り方」と題した、一人一人の学習状況に応じた教材の開発についての報告がありました。

広告チラシや、新聞の投書欄を利用した教材を使うなど、身近な生活の中から素材を見つけ、教材開発を行うことや、部分肯定評価の「○つけ法」が、学習意欲の向上や、前向きな学習態度に効果があるという発表でした。

今治市立日吉中学校は、「学力の定着向上を目指す授業改善の研究」と題し、思考力や判断力、表現力の育成を試みた授業の工夫や、小中、地域・家庭との連携の具体的な実践報告を行いました。その中で、保護者や地域の方々の学校教育への興味・関心を高めるための方法を学びました。

また、日頃堺市内の他の学校の先生方と話をする機会が少ないのですが、同行した先生方との交流は、大きな学びとなりました。

今回学んだことを今後の教育実践に生かしていきたいと思います。

参加にあたり、堺市の教育会の先生をはじめ諸先生方にはお世話になりました。本当にありがとうございました。

第２分科会　「学習指導」
堺市立東三国丘小学校教諭　工　藤　真　理

「『ことば』のまち松山」私がこの夏多くのことを学び、感じさせていただいた心に残るまちです。

私が参加させていただいた第２分科会「学習指導」では「習得・活用・探究を柱とする確かな学力の定着を図る学習指導の改善」という協議題で進められました。全国の熱い想いを持つ先生方の取り組みや、抱える課題などをもとに、様々な立場の方の意見を聞くことができました。その中で、私は次の二点について深く考えさせられました。

まず一点目は、日本の子どもたちが、どこの地域においても身につけるべき「当たり前」のことは徹底して身につけさせる必要があり、その方法や手段は地域や教師の個性によって違ってもいいということです。出発前の事前研修でも感じましたが、他の学校でもよく似た取り組みをしているということは、「当たり前」であると同時に、非常に大切なことなのだと思います。大都市であれ、過疎のすすむ村であれ、学ぶべきこと、身につけておくべきことは基本的に変わらないと感じました。そこからいかに堺という町の特性を活かした教育に深め、広げていくか、今後の私の課題にもなりました。

次に二点目は、習得・活用・探究という三つを、うまくリンクさせながら、授業を組み立てたいということです。自分は子どもたちに最も何を掴ませたいのか、その先、何につなげたいのかを考える必要性を感じました。大会のアトラクションで披露された、正岡子規や夏目漱石の存在を肌で感じられる松山ならではの「俳句甲子園」、また市内を走る路面電車や町中のいたる所にある「俳句ポスト」等。学校での学習にととまらず、家庭や町中に広がりをみせるそれらの学びには感動させられました。また、他府県でも課題になっている地域との連携や幼小中の連携の必要性も感じました。

最後に、堺の教育、自分の取り組みについて改めて考える機会をいただけたこと、また熱意あふれる先生方との出会いに、心から感謝申し上げます。この気持ちを、日々子どもたちに接するなかで、少しずつでもかえしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

愛媛大会に参加して

第３分科会　「道徳教育」

堺市立南八下中学校教諭　杉　中　啓　子

今回、日本連合教育会研究大会愛媛大会に参加させていただきありがとうございました。

この大会に参加する前に、事前研修会が３回行われ、幼・小・中のそれぞれの参加者が、各自の参加するテーマに沿っての実践報告を行いました。

同じ堺市内ではありますが、全く初対面の先生方と討議を重ねるうちに、いろいろな園・学校のさまざまな取り組みがわかり、お互いの理解を深められたこと、とても有意義でした。

さて、今回の愛媛大会のこの地は『坂の上の雲』（司馬遼太郎著）に登場する秋山好古・秋山真之・正岡子規を輩出した地でもあります。初日のシンポジウムでは、夢や希望・志を追い求めてその長く厳しい道を登った彼らのように、「子どもが伸びる教育」を実践するための要件とは何か、について考えさせられました。堺市からは野田小学校長の山本滋基先生が提案され、思考力コンテストや算数教育研究会実施への取り組みなどを教えてくださいました。元坂出市教育委員会の先生からは「思春期のライフスキル教育」プログラムの紹介がありました。また、松山の高校生によるミニ俳句甲子園のアトラクションもとても興味深く、会場からもワーッと歓声があがりました。午後からは10分科会に分かれての発表と討議でしたが、私は「道徳教育」の分科会に参加しました。「生きる力としての豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進」がテーマで、呉市・長崎県・愛媛県の教育会からの研究発表がありました。どの発表も授業作りの工夫・体験活動とリンクした道徳教育・地域との連携などが具体的に挙げられており、大変勉強になりました。特に、呉市の小中学校の道徳の連携体制と指導の工夫は、「４・３・２区分」（前期「小１～小４」・中期「小５～中１」・後期「中２・３」）を重視した指導を大きな柱としており、中１ギャップの解消と自尊心の向上に役立っていることを教えていただきました。

最後に、同じ堺市教育会から参加された先生方とも楽しく交流させていただけたことも感謝しています。本当にありがとうございました。

第３分科会　「道徳教育」

堺市立三国丘小学校教諭　松　村　麻　代

第62回日本連合教育会研究大会愛媛大会に参加させていただき、とても貴重な経験を通して多くの学びを得ることができたと思っています。

第３分科会「道徳教育」では『「生きる力」としての豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進』という協議題で、呉市教育会と長崎県教育会、愛媛県教育会の発表がありました。

呉市の音戸中学校と渡子小学校は、「豊かな人間性と自立心を育む道徳教育」という研究主題で、義務教育９年間の発達の連続性を重視した道徳教育について実践報告されていました。「中１ギャップ」を解消していくために、小学校と中学校の教師のＴＴによる授業、小中合同授業、複数の小学校の合同授業など学校段階間・異校種間の連携体制による指導の工夫が徹底されていました。また、授業内容に関連させたり、本物に触れさせたりする、価値ある体験活動を取り入れることの重要性を改めて認識することができました。

長崎県時津北小学校は、「豊かな心とたくましい体をもち、自ら学ぶ子どもの育成」と研究主題に掲げ、地域・家庭・学校が連携した道徳教育をめざして取り組んできたことを実践報告されました。時津北小学校には、道徳的価値ごとに「教材文・挿絵・指導案」をセットにして整理された資料が300セット以上あり、現在も子どもたちにとってよりよい教材になるように、日々の実践を通して資料の補充、改善を図っているということでした。いつでもすぐに、中身の濃い道徳の授業が行える環境が整っているということは、大変素晴らしいなと感じました。

愛媛県の白浜小学校からは、「絆を深める」をキーワードに取り組んできた活動の報告がありました。思いやりの心を育てるために、これまでに行ってきた体験活動の内容や方法を見直し、単なる「活動の場」ではなく「価値ある体験活動」にして絆を深めていかれた実践は、今後の指導を考える上で大変参考になりました。

この大会に参加し学んだことを、是非これからの実践に生かしていきたいと思います。お世話いただいた先生方、本当にありがとうございました。

愛媛大会に参加して

第３分科会　「道徳教育」

堺市立若松台中学校教諭　馬　渡　尚　子

今回、日本連合教育会研究大会「愛媛大会」に参加し、貴重な体験と有意義な研修機会をいただいたことに大変感謝しております。事前研修会では、レポートの発表をするということで、本校の道徳教育についての取り組みについて、今一度整理することができました。また、堺市内の小中学校のさまざまな取り組みについて、知ることができ、大変勉強になりました。

全体会の後、シンポジウムでは、「子どもが伸びる教育をめざして　～現代の子どもの『一朶の雲』とは～」をテーマに、氷見市、坂出市の先生方とともに、本市野田小学校長、山本滋基先生がシンポジストとして発表され、「すべての子どもに居場所と出番のある授業」をという取り組みについてお話を伺いました。子どもが自分の言葉で説明をする授業では、問題の理解が深まるだけではなく、言葉の力を育むことができ、大変参考になりました。「授業は板書、学力はノート。」確かな学力の定着を図る上で、一つの指針にしたいと思います。

分科会では、呉市立音戸中学校区での小中一貫の取り組み、長崎県時津町での地域・家庭・小学校が連携した取り組み、愛媛県八幡浜市での保護者アンケートや「まごころ通信（道徳通信）」を有効に活用した取り組み、三つの提案がありました。殊に小規模小学校が集まっている音戸中学校区では、人間関係の広がりについて行けず不安を抱えてしまうという中１ギャップがあり、自信を持って、豊かな人間関係を築く力を育成する道徳教育について、義務教育９年間の全体計画を作成して、取り組んでおられるとの話が強く印象に残りました。

正岡子規を生んだ歴史と文化の町、松山で、高校生によるアトラクション「俳句甲子園」を見せていただきました。研修の合間に念願の「子規記念博物館」にも足を運ぶことができ、今後の教科指導にも生かしていきたいと思っています。堺市の小中学校の先生方との交流も楽しく、大変有意義に研修させていただき、ありがとうございました。

第４分科会　「生徒指導」

堺市立福泉中学校教諭　島　木　伸　也

第 62 回日本連合教育会研究大会「愛媛大会」に参加させていただき、貴重な体験となり、大変感謝しています。

第４分科会では、「一人一人を生かすための積極的・継続的な生徒指導の推進」を研究協議題として、最初に栃木県教育会と愛媛県教育会からの研究発表がありました。

栃木市立国府北小学校の岩出先生と落合先生は、「お互いを理解し、よりよい人間関係を築ける児童の育成（セカンドステップの実践を通して）」を発表されました。セカンドステップとは、アメリカで開発された子どものコミュニケーション能力を高める目的で作られた教育プログラムで、その実践報告でした。私の勉強不足で、「セカンドステップ」という教育プログラムの事を知らなかったもので、今後の研究項目にしたいと思います。

松山市立椿中学校の山下先生は、「一人一人を生かすための積極的な生徒指導の在り方を求めて（共感的、受容的な態度を基盤とした生徒指導の在り方）」を発表されました。生徒一人一人に「存在感」を感じさせるように生徒把握に努め、教育相談アンケート・学校生活を明るくする調査を実施して、教育相談週間で生かす。さらに４本柱（あいさつ・身だしなみ・時間を守る・無言集中清掃）を学校生活の目標と定めて基本的な生活習慣を身に付けさせる等の取り組みの報告で、この発表も今後の「生徒指導の在り方」に大変参考になりました。

私の研究も発表させていただきました。大変緊張しましたが、貴重な体験となりました。

大会を通じて、堺市の様々な校種の先生方との出会い、目的の共有、情報交換等も、私の貴重な財産となりました。堺市教育会の先生をはじめ、諸先生方、本当にありがとうございました。

愛媛大会に参加して

第４分科会　「生徒指導」

堺市立新金岡小学校教諭　下　家　一　恵

第 62 回日本連合教育会研究大会「愛媛大会」に参加し、貴重な体験をさせていただきました。このような機会をくださったことに、とても感謝しております。

私が参加させていただいた第４分科会「生徒指導」では、『一人一人を生かすための積極的・継続的な生徒指導の推進』という協議課題で２本の実践報告がありました。

まず１本目は、「お互いを理解し、よりよい人間関係を築ける児童の育成」というテーマで、セカンドステップの実践をされている小学校の報告でした。子どもが突然怒鳴ったり、暴力を振るったりする、いわゆる「キレる」行動を未然に防止する目的で作られたセカンドステップは、①相互の理解②問題の解決③怒りの扱いについて組み立てられており、それぞれに細やかなレッスン内容がありました。子どもたちにとって「コミュニケーション能力」は、とても重要になります。しかし、その「コミュニケーション能力」が育ちにくくなっている現代、このような具体的な取り組みも必要になってくると深く考えさせられました。

２本目は、「共感的・受容的な態度を基盤とした生徒指導の在り方」というテーマで、中学校からの実践報告がありました。あいさつ・身だしなみ・時間を守る・無言集中清掃という学校の４本柱を元に、委員会活動や部活動との連携を図りながらの取り組みは、基本的生活習慣の育成にも大変効果があると感じられました。

また、今回の大会へ参加するにあたり、堺市教育会では参加者それぞれがレポートの作成も行いました。ただ大会へ参加するだけでなく、事前のレポート作成によって自校の実態や取り組みをあらためて振り返ることにより、大会への参加がさらに意味あるものになったと感じます。

愛媛大会で学んだことを今後の教育活動に生かし、一人一人を大切に、また子どもたちと全力で向き合っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

第４分科会　「生徒指導」

堺市立赤坂台小学校教諭　平　田　幸　子

私は今回、日本連合教育会研究大会「愛媛大会」に参加させていただく機会を与えていただいたことに感謝しております。

全体会では、「子どもが伸びる教育をめざして」と題したシンポジウムがありました。「坂の上の雲」の登場人物たちが追い求めた「一朶の雲」を現代の子どもたちのそれに置き換えての提案は、興味深く、また、教師として子どもたちが一朶の雲を追い求めるために必要な力とは何かを考えさせられるものでした。

第４分科会「生徒指導」では、「一人一人を生かすための積極的・継続的な生徒指導の推進」という研究協議題で２校の報告がありました。

栃木市立国府北小学校からは、近年増えている子どもたちの「キレる」行動を未然に防ぎ、子どものコミュニケーション能力を高める目的で作られた「セカンドステップ」の取り組みの実践報告がありました。取り組みを通して、子どもたちの積極的な問題解決への姿勢や周りの友達への心配り、また、先生方が子どもたちと一緒に問題解決の方法を考えるようになってきているというところが印象深く、本校の取り組みの参考にさせていただきたいと思いました。

松山市立椿中学校からは、生徒の実態把握から基本的な生活習慣が身についていない生徒の存在が少なからずあることが分かり、あいさつ・身だしなみ・時間を守る・無言集中清掃を学校生活目標の４本柱にして取り組んでいることと教育週間の実施の報告がありました。本校の取り組みとの共通点も多く参考になりました。

大会を終えて、全国の学校で実態に応じ、児童生徒の健やかな成長を願っての様々な取り組みに触れて、同じ悩みに共感し、素晴らしい取り組みに気持ちを奮起させた、貴重な一日となりました。また、同行された堺市内の先生方といろいろ話ができ大変勉強になりました。この大会に参加し学んだことをこれからの取り組みに生かしていきたいと思います。

本大会参加にあたりお世話いただいた先生方、本当にありがとうございました。

愛媛大会に参加して

第５分科会　「人権教育」

堺市立日置荘小学校教諭　稲　田　美　穂

今回、第 62 回日本連合教育会研究大会愛媛大会に参加の機会をいただき、ありがとうございました。

午前のシンポジウムは、野田小学校長山本先生による「子どもの心に灯をつける授業を」というお話でした。職員全員公開授業をすることで、それぞれが意識を持って、より質の高い授業を目指している点がとても印象に残りました。

また、午後から行われた第５分科会では、「互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくしていく人権教育の推進」を研究協議題とし、信濃教育会・愛媛県教育会から実践報告と研究協議が行われました。

信濃教育会の小諸市立水明小学校は、言葉の使い方の中でも「話し方・伝え方を考える」ということに焦点を当てた発表でした。「プラスの言葉で気持ち良く」を学級目標に、同じ言葉でも声の大きさや伝え方によって優しく聞こえたり、きつく聞こえたりすることを、子どもたちと一緒に考えていくというものでした。一人の子どもからの「自分の言い方のどこがきついのか、自分では分からない・・」という相談から始まった取組だそうですが、自分のイヤなことを担任に相談したいということ、また、一人の問題をクラス全体の問題として取り組めることは、担任と子どもたちが信頼関係をもって初めて成り立つものであり、日々大きな成果だなと感じました。

「言葉」に関しての課題が、私自身が協議資料をまとめる中で感じた、問題意識と同様であり、その後行われた質疑でも自分のことに引きつけて、有意義な時間を過ごすことができました。

今回、参加するにあたって、堺市教育会により研修会があり、発表や討議の準備が行われました。このことから、より質の高い資料ができ上がり、当日、課題意識を持って、主体的に討議に参加できたと思います。

最後になりましたが、当日持ち込みのための協議資料作成にあたり、多くの助言をいただきました校長先生を始め、諸先生方に感謝申し上げます。

第６分科会　「健康教育」

堺市立鳳南小学校教諭　屋　宮　雄一郎

「教育会の大会に行きませんか。」という校長先生の一言から「チャンスを頂いたんだから勉強してこよう」という思いと「観光できるな」という思いで参加させて頂くことになりました。しかし、私の考えていたようにあまいものではありませんでした。参加された先生方全員が協議資料を作成し、発表を行い、修正しながら３回も研修会をするなど大変なものでした。そのおかげで自信を持って大会に臨むことができるものとなりました。

初日は移動にかなり時間をとられ、スケジュール的に観光などの時間的余裕はなかったものの今回参加された堺の小中学校の先生方全員と短時間（３時間弱）で松山城や道後温泉、買い物に行くなど交流を深めることができました。これも時間が限らているからこそみんなが一致団結したのだと感じ、充実した初日を終えることができました。

２日目は朝早くから全体会に出席し、本市の山本校長先生がシンポジストとして発表され堺の教育力の高さを見事に発信して下さいました。分科会は「たくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」という協議題のもと、実践報告がありました。

東京都の報告では「体力の育成」のため毎日休み時間に児童全員が 50m 走を行うことで、運動場に出て遊ぶことの意義を感じるようになったと報告がありました。長野市と松山市からは、中学校教諭と栄養教諭の視点で「食」について報告がありました。中学校では自分でお弁当を作り、親の気持ちを知ることにより、健康について考えさせる実践でした。栄養教諭は、朝食・おやつ・野菜等の食を中心に、発達段階を踏まえ系統づけることで自らの生活を見つめ、見直す能力の育成を考え実践しました。子どもたちが主体的に取り組み、豊かに関わり合う活動の場や環境を工夫し、食の学習の場を増やすことで、食を楽しみながら関わろうとする意識が高まったとの報告でした。

今回の多くの提案の中から本市でも取り組んでみようと思うものが数多くあり、大変実りのある大会でした。このような貴重な機会を与えて下さいました校長先生ならびに教育会の方々、お世話頂いた先生方本当に有難うございました。

愛媛大会に参加して

第６分科会　「健康教育」

堺市立竹城台東小学校教諭　谷　村　泰　幸

今回、日本連合教育会研究大会「愛媛大会」に参加させていただき、貴重な研修の機会を得ることができ、また有意義な時間を過ごすことができたことに、大変感謝しています。

全体会では、今回のテーマ～現代の子どもの「一朶の雲」とは～について、考える場となりました。現代社会において、子どもたちの「あたま」・「からだ」・「こころ」がおかしくなってきたのではという問題提起から「子どもが伸びる教育」について、それぞれの視点からの提案発表を聴かせていただきました。その中でも、とくに私の心に響いたのが、学校教育において、「子どもが笑顔で来て、笑顔で帰る学校」をめざすということです。単純にて明快な言葉ではありますが、どの子もすべてとなると難しい課題です。しかし、それを追求していくことが学校における教育の本質であり、私たち学校教育に携わる者の役目ではないかと、今回の講演を聴いてあらためて感じました。

分科会では、「たくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」という研究議題で、体力向上・生活習慣の見直し・食育・安全教育などのテーマで報告がありました。どの報告においても、その学校全体で教職員が連携して、チームとなって取り組んでいる姿が印象的で、またポイントを絞った目標の設定や課題へのアプローチの仕方などが参考になりました。

また、私自身、分科会に参加する上で、自分の学校の取り組みについて、レポートをまとめるにあたり、実践内容の整理から実践過程の進行状況の確認、成果や課題を示すデータ作成など、あらためてふりかえるよい機会にもなりました。当日は、堺市の取り組みや実践を発表することもでき、またひとつ自分の成長にもつながりました。

最後になりましたが、まだまだ経験が浅い私に、このような貴重な機会を与えてくださいました校長先生ならびに教育会の皆様方、本当にありがとうございました。今回の研修で出会えた方々との縁も大切にして、学んだことを今後の教育活動に活かせるように努めていきたいと思います。

第８分科会　「幼児教育」

堺市立八田荘幼稚園教諭　守　行　みち子

愛媛大会では全体会に続き、『幼児教育』の分科会に参加しました。「生きる力」の基礎を培う幼児教育の推進という研究協議題のもと、徳島県からは「幼稚園・小学校の連携を通して豊かな人間性を育てる教育の創造～遊び・学び・共に生きる喜びを味わう」という主題で、幼小が協議をして教育目標を設定し、小学校への連続性を意識した保育に取組み、さらに家族、祖父母、地域の人との交流を通して幼児に豊かな人間性を育む実践報告でした。

その中で、①「幼小」の連携は幼児にとっても小学生にとっても互いに豊かな学びのある体験となる内容を創造する。②幼児期の豊かな人間性育成のためには幼児期に必要な体験を幼稚園はもとより、家庭や地域の中で様々な人とかかわり合いながらたっぷりと時間をかけて経験させる大切さを学びました。

また、愛媛県からは「豊かな学びの場をつくる教師の役割～５歳児の育ちを通して」としてより具体的な実践が報告されました。

私自身、幼児期に「生きる力」の基礎を培うためには、様々な人とのかかわりの中で人のぬくもりを感じ、かかわろうとする力を育てることが重要であると考えています。八田荘幼稚園でも十数年も前から先輩の先生方が取組まれたことが少しずつ広がり、今、年間を通して保育のさまざまな場面で未就園児、保育園児、小学生、中学生、地域のボランティアスタッフ、高齢者等、いろいろな人とかかわり合いながら多様な心情体験が経験できるように計画的に取組み、成果をあげています。

今回は、その中から高齢者の方との交流を提案させていただきました。全国からの参加者が討議し合い、同じような悩みや課題、さらに、その解決に向けての話し合いに参加できたことは貴重な経験になりました。今後の保育に生かしていきたいと考えています。ありがとうございました。

愛媛大会に参加して

第９分科会　「学校・家庭・地域の連携」
堺市立錦小学校教諭　小　畑　全　代

この度、第62回日本連合教育会研究大会「愛媛大会」に参加させていただきました。貴重な研修の機会を与えていただいたことに心から感謝しております。

私は、本校が取り組んできたことと関連の深い『学校・家庭・地域の連携・融合と開かれた学校づくり』という研究協議題が設定されている第９分科会に参加しました。

第９分科会では冊子に掲載されていた桐生市、東京都、愛媛県の各教育会と、レポートが提出されていた信濃、堺各教育会からの実践報告と協議が行われました。

桐生市立昭和小学校からは、校内に「学校支援センター」を設定し「防犯パトロール」「読み聞かせ」「校外学習の引率や授業での実技指導」など保護者の方々による学校支援ボランティアの協力を得た教育活動の取組が報告されました。東京都の四谷中学校からも校内に「スクールコーディネータ」を設置し地域と一体になった教育活動の取組が、愛媛県の泉川小学校からも校内に「サロン」を設置し学社融合となった教育活動の取組がそれぞれ報告されました。また、地域との密接なかかわりにより子どもたちが力をつけた信濃からのレポートによる報告があり、堺からも取組について報告させていただきました。

すべての報告から、不審者などにより安全・安心をおびやかされている近頃の学校では、「門を閉めること」も大切なことではあるけれど、それとともにより開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域の方々と連携を深め安全面などいろいろな取組を充実させていくことが、心豊かで健やかに生きる子どもたちを育んでいく上で大切なことであるとあらためて感じました。

この大会で学んだことを今後の教育活動に生かしていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

第９分科会　「学校・家庭・地域の連携」
堺市立英彰小学校教頭　林　　博　文

第62回の日本連合教育会研究大会に参加させていただく機会をいただき貴重な経験をすることができました。

大会に参加するに当たり、事前研修会がもたれた。堺市内の各学校園から集まられた諸先生方の日々の実践から各小学校の取り組みが分かり、勤務校の実践をみつめるよい機会となった。

大会のシンポジウムではテーマを『子どもが伸びる教育をめざして　～現代の子どもの「一朶の雲とは～」』と題し、３人のシンポジストの話をお聞きしました。各人それぞれの立場から「子どもが伸びる教育」について、知・徳・体の実態とその背景を明らかにし、現代社会に生きる子どもたちが未来に向かって伸びていく教育実践の要件とは何かについて考えさせられた。

分科会は第９分科会に参加させていただきました。「学校・家庭・地域の連携・融合と開かれた学校づくり」という研究協議題で３つの実践報告がありました。少子高齢化、核家族化、都市化等に伴う人間関係の希薄化による家庭や地域の教育力の低下が指摘されている。課題解決のための子ども像の共有と地域・社会との連携・協働が必要であり、地域の教育力の活用と開かれた学校づくりの推進についてあらためて考えさせられた。実践報告は緊密な連帯感に基づく子どもの健全育成、地域の特性を生かした学校教育の在り方についての報告であった。

また、分科会に提出したレポートの発表をする時間をいただき、堺市と英彰小学校の実践と課題について報告することができました。

最後に多くの方々に応援していただき、また、支えていただき、このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

「堺市教育会にご協力いただいた中で・・・」

堺市立浜寺東小学校校長　島　﨑　幸　司

本年度は、これまで区ごとに行われていた教育会の集いが、小学校ＰＴＡ協議会との共催で、小学校全体の研修会として行われるようになりました。

本校は西区ＰＴＡ協議会として、小学校ＰＴＡ協議会の事務局を務めることになり、教育会の会長様はじめ、関係諸団体の方々にご協力いただき平成22年度の堺市小学校ＰＴＡ協議会研修会・教育会の集いを行うことができました。

私自身、日本連合教育会研究大会では、平成元年に徳島大会の人権教育の分科会に参加させていただきました。

日本連合教育会に参加させていただく者として、これは今も変わらないのですが、堺市教育会としてのアピールをさせていただきました。徳島大会では、当時の所属校である大仙西小学校の教育目標をたくさんの参加者の中で、お話しさせていただきました。

また、平成4年には、長崎大会で、同校の同和教育の取組みについて、報告させていただくことになりました。現地に行く前に、事前研修として堺市教育会の会長様、教育委員会事務局の方々より丁寧にご指導いただき、自信をもって大会に臨むことができました。

現地では、長崎の教育会の方が司会をしてくださいました。当初、レジメと報告内容をご覧になられ、現地での打ち合わせの際「先進的な堺市の取組みが、受け入れられればいいですね」と懸念しておられました。

事務局の方にお話しさせていただくと、教育会の方々、教育委員会の方々から本当に親身になってアドバイスをいただきました。そして、「堺と長崎の共通点（出島の話等）から入ればいいじゃないですか。堺の心で最善を尽くしてやってみなさい。」と言っていただきました。

今年、堺市教育会の方々とお話をさせていただき、あの当時の温かさをそのまま再び感じさせていただきました。ご協力、本当にありがとうございました。

礼儀正しさ

堺市立三国丘小学校校長　寺　田　眞　澄

その日は朝から雨が降っており、天気予報でも雨が降り続くということでした。支援学級の合同学習発表会と5年生の連合音楽会が、同じ日に堺市民会会館で開かれる予定でした。支援学級の付き添いとして10名ほどの児童を引率して、乗り合いバスで市民会館まで連れて行かなくてはなりません。おそらくひどい土砂降りになるだろうから、カッパと傘の用意をして、濡れても構わないようにジーパンをはき、普段の遠足に付き添うような格好で学校に行きました。

学校には、5年生の先生方がスーツを着て、ネクタイをきちんと締めた服装で子どもたちの登校を待っていました。5年生も同じように雨の中を市民会館まで電車で行くのです。それでも担任の若い先生はきちんとした服装なのです。

そのとき私は「ハッ」とすると同時に自分の至らなさを恥じ入りました。そうなのです。今日は子どもたちの学習発表会であり、音楽会なのです。毎日いっしょうけんめい練習を続けてきた子どもたちや指導を続けてくださった先生方にとっては、晴れの舞台なのです。何という格好でと自分の無礼が恥ずかしくなりました。

礼儀正しさは相手を尊重する気持ちから生まれるものです。私の今日の服装は、子どもたちや指導してくださった先生方に感謝し尊重する気持ちが、足りなかったからではないだろうかと考えました。それからは、「教師としてふさわしい服装をしなさい」と先生方に指導するとき、この日の経験を伝えるようにしています。

学校の先生方は、あまり服装に構わないとは、よく言われることです。何も、毎日きちんとスーツを着なさいとかファッショナブルな服装をしなさいとかではありません。清潔な服装にする、そのときの場や相手にとって敬意を表す服装であれば良いということです。普段の通勤はもちろんのこと研究授業、授業参観、研修、学習発表会、音楽会、体育大会などその時々において、自分の服装を振り返ってみることも大切です。

「未来からの留学生」

堺市立登美丘西小学校校長　吉　田　憲　一

「学校は何をするところ？」

「勉強するところに決まっているじゃない！」

では、その勉強とは何のためのどんな勉強なのでしょうか。

以前、私がクラス担任をしていた頃の教え子に同じことを聞いたことがありました。さまざまな考えがありました。

「社会に出て役立つための勉強をするところ」「自分をよりよくするところ」「違う考えをもつ友だちと交流するところ」「いろいろな考えと自分の考えを比べることができるところ」「自分の苦手や得意なところを見つけることができるところ」「人にどうやったら自分の考えを伝えることができるか、伝え方を学ぶところ」「ルールや言葉遣いを仲間と学ぶところ」「人間のすばらしさを知るところ」「心の勉強をするところ」「他人のことが考えられるようになるところ」だと言うのです。

私はその考え方の多様さに驚くとともに感動しました。

テストの点数とか、入学試験に合格するためとかということもあるかもしれません。しかし、それは最終目標ではないはずです。

「子どもは未来からの留学生」やがて社会に出て、子どもは未来の社会を創る主人公となります。その時に社会で役立つ存在になるために学校で何を学ばせ、何を身につけさせておいたらいいのか、「生きる力」の中身を学校はもっともっと子どもの実態に即して具体化して考えなければならないと思います。

来年度から、新しい教育課程が全面実施され、教科書も現在1.7倍になると言われています。教師も、日々の授業で教科書のページ数を少しでも進むのにあくせくすることなく、何をこの単元で大切に指導するのかを明確にし、子どもに自覚させるとともに、保護者にもしっかりと説明できる力量が問われます。

これからの学校教育

堺市立鳳中学校長　新　井　　洋

ある新聞に「今の子どもたちに二つの不安を感じている。一つは人と人の繋がりの希薄化だ。総務省の調査で小中学生の五人に一人が『人といると疲れる』と答えている。もう一つは学ぶ意欲だ。ＯＥＣＤが加盟国を対象におこなった国際到達度調査で、日本の子どもたちの学習意欲の低下が目につく、学ぶ意欲を失っていることが心配だ。」という記事が載っていた。

本校にも、コミュニケーションをとるのが苦手で、それがもとですぐに暴力に訴える生徒や、不登校になりがちな生徒、また、学ぶ意欲が高まらない生徒も少なからずいる。

明治以来、我が国は中学校では一斉授業の形態をとってきた。一斉授業は効率よく知識を伝達できるという特徴をもっているが、数学者の秋山仁氏は「教師主導型の詰め込み式の勉強になっている」と言い切る。すべてがこうした授業だとは思わないが、知識注入型が多いことは確かである。高校受験を考えると学ぶ必要感や学ぶことの面白さなどは二の次になってしまっているのではないだろうか。現在、子どもを取り巻く環境には非常に厳しいものがある。社会情勢の激しい変化、急速に進む情報化や核家族化の進展などで益々子どもは孤立化していくのではないだろうか。知識を詰め込む勉強ではなく、学ぶ喜びを感じたり、疑問を解決するために仲間で知恵を出し合いながら学んでいく授業形態に変えていかねばならないのではないだろうか。

「子ども達に感謝・地域の皆様に感謝」

堺市立高倉台西小学校ＰＴＡ会長　林　　賢　二

ＰＴＡ会長を引き受けることになった当時を振り返りますと、不安一杯でありました。前任者より後任としてのお話があった際には、正直少し迷っていた事も事実です。しかし、皆様の助けもあり無事３年間ＰＴＡ会長を務めることが出来ました。本当に感謝・感謝です。

ＰＴＡ会長を引き受けさせて頂いた頃は、何とか子ども達の為にとの思いが強く、一人ひとりの子ども達が明るく、元気にイキイキと日々成長してもらいたい。大きな夢をもってまっすぐに成長してもらいたいとの思いがありました。しかし今思いますとそれらは私自身に向けられていた思いであったように思います。子ども達はいつも私達大人の背中をみております。子ども達は我々が忘れかけている素晴らしい感性と思いやり、そして無限の可能性を秘めておりました。そして日々成長させて頂いた、あるいは日々忘れかけていた大切なものを思い出させてくれたかと思います。本当に子ども達に感謝・感謝です。そして子ども達の澄み切った楽しい声が聞けるのは、地域の皆様のお陰であると感じております。私どもの校区エリアは他の校区と比べましても比較的小さく、現在では児童数も非常に少ない学校であります。このような子ども達を取り巻く環境の中で、本当に子ども達はのびのびと地域の皆様に見守られながら毎日を過ごしております。昨日と変わらぬ日が来ることの幸せを肌で感じてくれていると思います。地域の皆様に感謝申し上げます。

最後に、子ども達には、無限の可能性があると同時にそれは大きな夢に繋がっていきます。子ども達一人ひとりに違った夢があり、いつか叶える日がくることを楽しみにしております。また今夢がない子ども達もそれは悪いことではないということを分かってもらいたい。そして大人達にも分かってもらいたい。今夢がないということは、これからどんな夢でも持てるということです。

本当に多くの皆様に感謝致します。

「言葉のご馳走」で心を満腹に！

堺市立八田荘中学校ＰＴＡ会長　岸　本　　亘

30 代になっても気楽な生活をしていた頃知人の紹介で出会ったのが、私の生涯の伴侶となる妻でした。初めて会った時は、お互いに「タイプではないなぁ」と思いながら、とりあえず楽しく食事をし・・・結婚。ご馳走が取り持つ縁から月日を重ね、昨年 16 回目の結婚記念日を迎えました。

結婚して最初に交わした約束は、「“はい”“ごめん”“ありがとう”をお互いに毎日いっぱい言い合おうね」でした。３つ併せてもたった10文字の簡単な言葉だけど、いつも一緒にいる生活になると、時々難しい言葉になってしまうことがありました。自分だけのペースでいる時には、「はい」ではなく、先に「何？」「せやけど」「はいはい」と横柄な返事になったり、言い訳が先に出そうになるけれど、「あかん、あかん」と約束を思い出して今日まで新婚当時の気持ちを大切にしてきました。

今の時代は、物があふれ生活が便利に豊かになってきた反面、人との関係がどんどん希薄になり、そして、不景気な世の中になってきたように思います。こんな時こそ、準備もいらず、お金もかからない「言葉のご馳走」でお互いの心を満腹にしていけたら素敵だなと思います。

子どもに言って聞かせる前に、私たち大人から、「いつまで・どこでも・誰にでも」心地よい思いを言葉のご馳走としてだすことができれば、心を満腹にした素晴らしい家庭、そして地域が生まれてくることと思います。私も今回の会報のお話をいただいたことで、改めて、心地よい言葉のご馳走をだす時に「笑顔」を添えることを忘れず行っていきたいと思いました。

「支えていただき感謝！」

堺市立美原北小学校ＰＴＡ会長　松　原　　恵

昨年の 12 月に、私の地区から来年度のＰＴＡ会長を決める話し合いが、行われました。私は、どちらかと言うと、人の前を行くタイプではなく、人の後ろを行くというタイプなので、「私は、務まらない。」と自信満々（？）で、その場にいたのですが、くじを引いてしまい・・・頭が真っ白に。その日から「私でも、務まるのだろうか？」と、落ち着かない日が続きました。年が明けて、だんだんと気持ちも、落ち着き少しづつ「がんばるしかない！」と気持ちが、変わり始めました。緊張する中、新しい役員の方々と顔合わせし、不安な気持ちはみんな一緒で、お互い“よろしくお願いします”が精一杯でした。私を初め、ほとんどの人が仕事をしている為、何度も集まることができない中、すぐに活動が始まりました。初めは、何でも自分がしないと・・・と思いこんでいた私。いざ、進む中、“一人では無理”だと思い、「どうしたらいい」と相談すると、とても気持ち良く、意見を出して頂いたり「あの時お手伝いできなかったので、次の時はします。」と仕事について、役割も進んでして頂きました。「同じするなら、楽しんでしよう。」と役員の方に温かい言葉を言って頂き、気がつきました。迷った時・困った時、言ったら、みんなで楽しく考えてくれるんだという事に。皆さんの心強い言葉・心強い行動力、本当に支えて頂いてるんだと改めて感じました。そして、家庭にも協力してもらい、会議・行事など参加でき、兄弟でのお留守番も慣れっこになったように思います。会議などで遅く帰った時、１番下の子どもが「おかえり」と、笑顔で抱き着いてくれたり。私に、笑顔を見せて「わらって」としてくれたり。ふっとした時にリラックスさせてくれ、とても、大きな支えになりました。この一年で経験したことは、長い人生の中で、思い出に残る一年だと思います。役員の方・先生方・友人・家族と支えていただき、感謝し、お礼申し上げます。

「ＰＴＡ会長をやってみて思うこと」

堺市立東深井小学校ＰＴＡ会長　高　橋　保　彦

今年で２年目のＰＴＡ会長です。当校のＰＴＡは、副会長が会長になるのではなく、突然、ＰＴＡ会長を務めないといけません。昨年の４月から７月までの１学期は、何も解らない事だらけで、バタバタしました。おまけに体育大会が秋祭りと重ならないよう、５月末に行われるので何をしてよいやら・・・

そこで思った事は、資料になる書類が昔からの使いまわしや口頭での引継だったので、まとまりがなかったことです。仕事柄（建設業）作業をする時、必ず作業手順書を作成して、誰が見ても解るようにし、作業します。同じ様に、ＰＴＡ活動も１年で変わる役員や実行委員が見て解り易い様に書類を一新しました。

体育大会で忘れそうな準備作業などを写真に撮っておき、終了後に反省点を含めて流れをまとめました。そこから体育大会運用マニュアルを作成し、今年はマニュアルを活用して準備から当日の作業を行いました。昨年よりスムーズに役員・実行委員が作業できるようになりましたが、今年も反省点が出ましたのでマニュアルの改訂をしていきます。

こんな調子で、何もないところから、色々考えて活動書類を作成したり、企画を考えたりするので、仕事の昼休み・仕事から帰ってきての作業になり結構忙しくなりました。ただ、サラリーマンとして仕事をしている自分としては、ＰＴＡ関係の行事に出席・参加のために早退・遅出・半休を取るのは良いのですが、仕事の調整をするのがとても大変です。だから、ほとんどの会長や役員になった人達は、「今までの引継している事しか、しないんだなぁ」と感じました。

仕事をしながらのＰＴＡ活動が大変なのは解りますが、誰かが何かをしてくれるのを待つのではなく、学校や児童のために私たちが今、何ができるかを考え、楽しく活動をしながら児童を温かく見守っていきたいと思っています。

平成21年度　収入支出決算書

収　入　の　部　　（単位：円）

科目		予算額	収入済額	差額	説明
1．会費		4,045,000	3,885,000	△160,000	
内訳	正会員	2,870,000	2,795,000	△ 75,000	1口 1,000円（保護者） 391口
					1口 1,000円（教職関係）2,404口
	特別会員	175,000	170,000	△ 5,000	1口 5,000円（一般役員） 34口
	賛助会員	1,000,000	920,000	△ 80,000	個人5,000円 46口、団体1万円 69口
2．雑収入		2,000	333	△ 1,667	預金利息
3．前年度繰越金		852,206	852,206	0	
計		4,899,206	4,737,539	△161,667	

支　出　の　部　　（単位：円）

科目	予算額	支出済額	差額	説明
1．会議費	130,000	116,419	13,581	役員会、協議会経費
2．事務費	500,000	614,192	△114,192	印刷・消耗品費、通信費、会費振込料金
3．旅費	100,000	93,340	6,660	日本連合教育会理事会旅費
4．事業費	3,800,000	2,662,807	1,177,193	（明細は別表参照）
5．慶弔費	50,000	0	50,000	弔慰金
6．負担金	100,000	120,820	△ 20,820	日本連合教育会負担金
7．予備費	19,206	134,420	△115,214	
8．積立金	200,000	400,000	△200,000	日本連合教育会堺大会準備積立金
計	4,899,206	4,101,998	797,208	

別　表（事業費明細書）　　（単位：円）

科目	予算額	支出済額	差額	説明
教育視察	1,210,000	772,154	437,846	日本連合教育会研究大会山口大会
会報発行	270,000	300,000	△ 30,000	印刷代
教育会の集い	800,000	663,350	136,650	（8支部に各10万円上限）講師謝礼、会場費
永年勤続感謝状贈呈	470,000	445,375	24,625	感謝状、記念品代等（155名）
青少年奨励表彰	50,000	2,000	48,000	賞状、記念品代（1人当2,000円の図書券）
教育研究諸団体助成	1,000,000	439,928	560,072	教育活動事業への奨励金　15団体
計	3,800,000	2,622,807	1,177,193	

収入決算額　　4，737，539円
支出決算額　　4，101，998円
差引残金　　635，541円

平成22年度　収入支出予算書

収　入　の　部　　（単位：円）

科目		本年度予算額	前年度決算額	比較	説明
1．会費		3,900,000	3,885,000	15,000	
内訳	正会員	2,800,000	2,795,000	5,000	1口 1,000円（保護者） 400口 1口 1,000円（教職関係）2,400口
	特別会員	175,000	170,000	5,000	1口 5,000円（一般役員） 35口
	賛助会員	925,000	920,000	5,000	個人5,000円 45口、団体 1 万円 70口
2．雑収入		330	333	△ 3	
3．前年度繰越金		635,541	852,206	△216,665	
計		4,535,871	4,737,539	△201,668	

支　出　の　部　　（単位：円）

科目	本年度予算額	前年度決算額	比較	説明
1．会議費	130,000	116,419	13,581	役員会、協議会経費
2．事務費	700,000	614,192	85,808	印刷・消耗品、通信費
3．旅費	100,000	93,340	6,660	役員会旅費 日本連合教育会理事会旅費
4．事業費	3,100,000	2,622,807	477,193	（明細は別表参照）
5．慶弔費	30,000	0	30,000	弔慰金
6．負担金	130,000	120,820	9,180	日本連合教育会負担金
7．予備費	145,871	134,420	11,451	
8．積立金	200,000	400,000	△200,000	日本連合教育会堺大会準備積立金
計	4,535,871	4,101,998	433,873	

別　表（事業費明細書）　　（単位：円）

科目	本年度予算額	前年度決算額	比較	説明
教育視察	900,000	772,154	127,846	日本連合教育会研究大会愛媛大会
会報発行	300,000	300,000	0	印刷代
教育会の集い	500,000	663,350	△163,350	講師謝礼・会場費
永年勤続感謝状贈呈	470,000	445,375	24,625	感謝状、記念品代等（約150名）
青少年奨励表彰	30,000	2,000	28,000	賞状、記念品代
教育研究諸団体助成	500,000	439,928	60,072	教育活動事業への奨励金
教育会絵画展	50,000	0	50,000	作品を募集・展示　参加賞・賞状代
教育支援団体表彰	50,000	0	50,000	学校教育を支援している団体を表彰
校内新任者研修助成	300,000	0	300,000	経験の少ない教職員の研修補助
計	3,100,000	2,622,807	477,193	

堺市教育会125年のあゆみ

(1885～2010)

西暦(年号)		教育会のできごと	一般のできごと
1885	明18	「私立堺教育談話会」が発足	教育令の改正
1889	明22	「私立堺教育談話会」が「私立堺教育会」となる 会誌「堺教育会報」を発行「堺教育義社」創設	大日本帝国憲法公布 堺市制施行
1899	明32	「私立堺教育会」が「堺市教育会」となる	
1900	明33	堺市教育会主催、市内小学校連合運動会開催	
1905	明38	機関雑誌「堺市教育」第１号を創刊 私立堺市教育会付属実業補習学校開設 （現堺市立工業・第二工業高等学校）	
1906	明39	堺市教育会教育関係者懇談会発足する	
1907	明40	水泳練習所開設	
1909	明42	堺市教育会大講演会開催	
1911	明44	練武館開館	
1913	大２	教育懇談会は通俗談話会とよばれ社会教育として開催	
1914	大３	堺市教育会夏期講習会開設	
1925	大14	堺市教育会40周年記念「堺市教育会一覧」刊行	普通選挙法を公布
1935	昭10	堺市教育会創立50周年記念式典挙行	
1946	昭21	堺市教育会復活の声起こる	日本国憲法公布
1947	昭22		教育基本法・学校教育法公布
1948	昭23	「堺市教育振興会」として復活	教育委員会法公布
1949	昭24	教育功績者表彰規定、教育研究奨励金交付規定制定 第１回堺市教育関係物故者追悼会挙行 機関紙「堺市教育会報」第１号創刊	教育公務員特例法公布
1955	昭30	会名を「堺市教育会」と改める （日本連合教育会加盟）	第１回全国教育週間
1959	昭34	第11回日本連合教育会研究大会堺大会開催	日本学校安全会法公布
1965	昭40	堺市教育会80周年記念式典挙行 青少年善意賞規定制度	同和対策審議会答申発表
1969	昭44	堺市教育会80周年記念誌刊行	同和対策事業特別措置法公布
1971	昭46	堺市教育会体育運動の集い開催 （大浜体育館開設）	
1976	昭51	堺市教育会90周年記念式典挙行	
1983	昭58	第１回「教育会の集い」開催	
1985	昭60	堺市教育会100周年記念式典挙行	
1987	昭62	堺市教育会創立100周年記念会誌刊行	
1995	平７	第47回日本連合教育会研究大会堺大会開催 堺市教育会創立110周年記念式典挙行	
2002	平14		学校週５日制実施
2005	平17	美原支部新設	堺市と美原町合併
2006	平18		政令指定都市・堺誕生
2010	平22	第１回教育会絵画展	

平成22年度　堺市教育会役員名簿

役職名	氏　　名	担　　当
会　長	大　澤　徳　平	全　市
副会長	小　山　喜　隆	〃
	辻　　一　哉	〃
	山　本　善　雄	〃
理	辻　村　育　代	〃
	原　野　乃生夫	〃
	四　宮　幸　男	〃
	木　村　悦　三	〃
	辻　本　修　一	〃
	シェルトン ジョン	〃
	佐村木　正　和	〃
	西　川　孝　雄	幼・長
	深　井　典　子	幼・副
	宮　崎　とも子	幼・副（八田荘幼）
	山　本　登三男	幼・堺長
	髙　﨑　　淳	小・堺副
	寺　田　眞　澄	小・堺副（三国丘小）
	西　川　政　亘	小・西長
	楠　　玲　子	小・西副
	島　﨑　幸　司	小・西副（浜寺東小）
事	仲　井　基　浩	小・北長
	鴨　　八　郎	小・北副
	塩　田　紀代美	小・北副（金岡小）
	木　本　隆　夫	小・中長
	乾　　泰　幸	小・中副
	井　野　久美子	小・中副（東深井小）
	正　木　幸　彦	小・東長

役職名	氏　　名	担　　当
理	久　保　義　武	小・東副
	吉　田　憲　一	小・東副（登美丘西小）
	奥　野　正　作	小・南長
	辻　田　尚　美	小・南副
	大　木　一　雄	小・南副（高倉台西小）
	中　谷　権二郎	小・美長
	鯵　坂　農　子	小・美副
	林　　晃　伸	小・美副（美原北小）
	上　野　　眞	中・長
	杉　本　貫　爾	中・副
事	新　井　　洋	中・副（鳳中）
	筒　井　博　行	中・副（八田荘中）
	鹿　野　洋　典	中・副（泉ヶ丘東中）
	笠　原　智　之	高・副
	中　辻　悦　郎	高・副（堺高）
監　事	中　原　　治	
	矢　嶌　　茂	
名誉会長	土　師　　登	
	戸　神　繁　一	
顧　問	山　葭　良　行	
	藤　井　康　男	人権協
	吉　田　良　子	
事務担当	坂　口　弘　昭	学校教育部
	境　　妙　子	学校教育部
	仲　田　光　子	事務局
	藤　丸　洋　一	事務局
	川　﨑　修　二	事務局

堺市教育会会則

第　1　章　　総　　則

第1条　本会は堺市教育会と称し、事務所を役員宅に置く。
第2条　本会は本市教育の振興に寄与することを目的とする。
第3条　本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。
　1．公正な教育世論および教育尊重の気風の醸成。
　2．教育の振興に関する奨励助成。
　3．教育に関する調査研究。
　4．会員相互の親睦、啓発。
　5．教育諸団体との連絡協調。
　6．その他教育の刷新に必要な事業。

第　2　章　　会　　員

第4条　本会の会員は正会員、特別会員、賛助会員とする。
　正会員は堺市内に勤務する教職員及び本会に賛同する個人または団体。
　特別会員は役員、顧問等。
　賛助会員は本会の目的に賛同し、これを支援する個人または団体。
　【会　　費】

正会員	1口につき	年額	1，000円
特別会員	1口につき	年額	5，000円
賛助会員	1口につき	年額 個人	5，000円
		年額 団体	10，000円

第　3　章　　支部・部会

第5条　本会は会員の意識とその主体性を高めるため、本市行政区・校種別に支部を置く。
第6条　支部に理事の中より支部長1名、副支部長3名以内を選任する。
第7条　支部会長は支部を組織しその会務を統括する。副支部長はこれを補佐する。
第8条　学校園は、それぞれの支部に属する部会とし、部会長1名を置く。
　部会長は部会を統括し、支部活動に協力する。

第　4　章　　役　　員

第9条　本会には次の役員をおく。

1．会	長	1名
2．副	会長	3名以内
3．理	事	50名以内
4．監	事	3名以内

第10条　役員は選考委員会の推薦により、役員会で選出し協議会の承認を受ける。
第11条　理事のうち現教職員関係者は半数以内とし、監事のうち1名は専門家を選任する。

第12条　会長は本会を代表し、一切の会務を統理し、会議の議長となる。副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。
理事は会務を審議・執行する。
監事は会計事務を監査する。
第13条　本会に名誉会長・顧問を置くことができる。これは役員会で審議・決定する。
名誉会長・顧問は会長の諮問に応じて意見を答申する。
第14条　役員の任期は２年とする。ただし重任を妨げない。
補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。
役員は任期満了後も後任が就任するまで、その職務を行うものとする。

第　5　章　　会　　議

第15条　会議は協議会及び役員会・支部役員会とする。
第16条　協議会は役員・各支部の部会長・各学校園長等をもって構成する。
協議会は、定時及び臨時に会長これを招集する。
協議会はその構成員の５分の１以上の出席をもって成立する。
第17条　協議会は下記事項を審議議決する。
１．収入支出の予算及び決算に関する事項
２．基本財産の処分に関する事項
３．会則の変更に関する事項
４．その他重要な事項
第18条　役員会は必要に応じて会長これを招集する。
第19条　役員会は本会の会務執行のため下記の事項を協議する。
１．事業の執行に関する事項
２．会議に関する事項
３．その他会務執行上必要な事項
第20条　支部役員会は必要に応じ支部長がこれを招集し、支部に関する事業を執行する。

第　6　章　　会　　計

第21条　本会の経費は会費その他の収入をもってこれに充てる。
第22条　本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

第　7　章　　付　　則

第23条　本会則を施行するに必要な事項は会長が役員会にはかり別に定める。
第24条　本会則は、平成２１年６月１日より施行する。

本規約は　明治18年５月に制定される
昭和30年５月11日　改正
平成９年５月29日　改正
平成10年５月29日　改正
平成14年５月29日　改正
平成15年５月22日　改正
平成19年５月24日　改正
平成21年６月１日　改正　　以　上

平成22年度『堺市教育会』賛助会員名簿

個人の部　－32名(35口)－（敬称略・順不同）

出口　隆雄	中区
浄得寺 松井　聡	堺区
矢嶌　茂	南区
上野　眞	東区
土師　登	南区
奥中　登	西区
久我眞見	堺区
山本憲親	東区
岡　萬次郎	中区
藤村艶子	和泉市
伊藤　篤	南区
下尾　博	中区
津田義則	東区
東和田政弘	北区
西尾重雄	南区
吉田博司	河内長野市

宇野佳子	西区
伴　文正	北区
井野　勉	西区
熊野道夫	南区
丸井英二	中区
阪之上清以彌	西区
尾本　晉	南区
中原　治	堺区
有馬伸一	中区
吉川　守	北区
小川幸子	西区
河中義和	堺区
横原幸一	堺区
深井恒夫	堺区
井上嘉次	南区
福井隆一郎	堺区

エフケイハウジング㈱

代表取締役　橋本隆吉

堺区賑町3－1－10
072－223－2311

堺能楽会館

館主　大澤徳平

堺区大浜北町3－4－7－100
072－238－2000

堺電気工業協同組合

理事長　鎌田和一

堺区熊野町東2丁1－22
072－232－4572

福泉工業株式会社

代表取締役専務　西田易史

西区菱木4丁2871
072－273－2277

㈱トラダ

虎田　勝

堺区南半町西3丁4－16
072－232－4572

㈱旭ウェルデックス

代表取締役　山葭武志

堺区南旅篭町西2－1－19
072－222－5151

堺市保育会

会長　白本忠史

堺区神保通1－20
072－233－2429

㈱エディカル

代表取締役　中西亮史

北区金岡町833－6
072－257－1000

米田薬局グループ

代表取締役　米田眞理子

堺区北三国ケ丘町1－1－16
072－223－8778

矢野金属㈱

取締役社長　谷口昌宏

美原区真福寺89－1
072－369－3333

NPOヒューマンツープラスツー

理事長　佐々木　一　頼

堺区戎之町東５丁５－15

水道修理 サンハウスメンテ

代表　二宮邦彦

東区野尻町４１５
0120－010－455

アテックにしかわ

代表　西川孝雄

東区野尻町40
072－288－0900

英彰会

英彰小学校部会

錦綾会

錦綾小学校部会

大陽日酸㈱

堺支店長　山本岩男

堺区大浜西町４
072－221－7125

白鷺校区連合自治会

会長　辻本幸雄

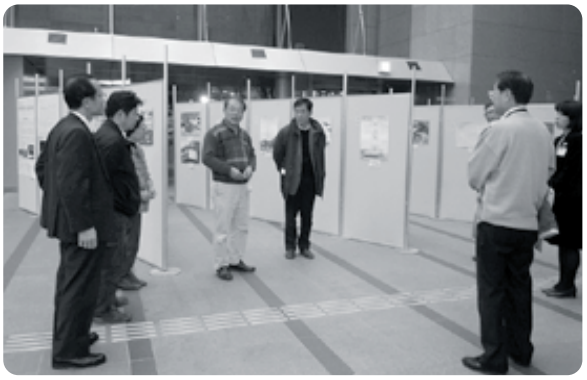
東区野尻町426－３
072－285－0396

学校園ＰＴＡ－47団体（50口）

幼稚園2部会（2口）・小学校30部会(30口)・中学校14部会(16口)・高等学校1部会（2口）

平成22年度　第１回「教育会絵画展」

平成22年12月23日～28日
於 堺市役所本館エントランスホール



平成22年度 各支部教育会の集い

中学校支部（9月11日）

幼稚園支部（12月7日）

平成22年度 永年勤続感謝状の贈呈

感謝状

記念品